

各国の大学改革 の現状

アメリカ・ヨーロッパ・アジア

山形大学
2005年12月16日
桜美林大学 特任教授 潮木守一



ヨーロッパで 何が起きているか？



フランスでの若年失業者の暴動(2005年11月発生)



フランス都市郊外での暴動発生

- 起こるべくして起きたこと
- 若年失業者
- 移民家庭の若者
- 高校中退者
- 職もなければ、通うべき学校もない
- 青年の marginalisation



Nicolas Sarkozy
(フランス内務大臣)



サルコジ内相の 「社会のくず」発言

- Nicolas Sarkozy
- 移民家庭生まれ
- 1955年生まれ
- 1978年私法で学士課程修了
- 1981年政治学で修士号取得(DEA)
- 弁護士から政界へ



内相と暴徒の対立が意味すること



- 先進福祉国家におきた象徴的な事件
- 社会的公平政策の予期せざる結果
- 両極分解現象
- 先進国共通の傾向

1960、70年代の世界的動向



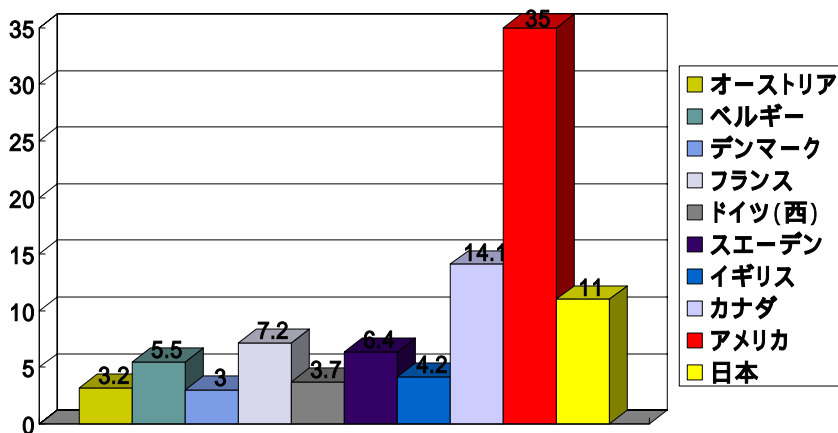
- なかなかいけない学校を、できるだけ多くの若者に
- 経済成長の成果を教育に
- 人材育成を通じて、将来の展望を
- 中等教育・高等教育の拡大

先進国共通の拡大



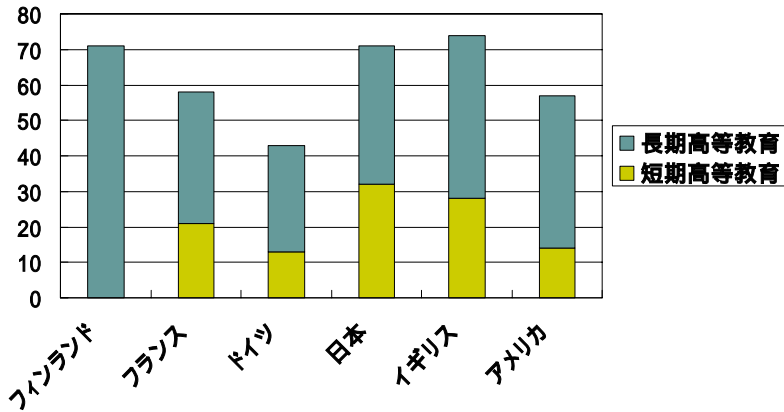
- 第2次世界大戦後の高等教育拡大
- それ以前、アメリカ以外は同一年齢層の5%以下しか就学せず
- 現在では30 - 50%

1960年当時の大学進学者 (同一年齢層に占める割合)



先進国では6割以上の若者が、高等教育を受けるようになった。

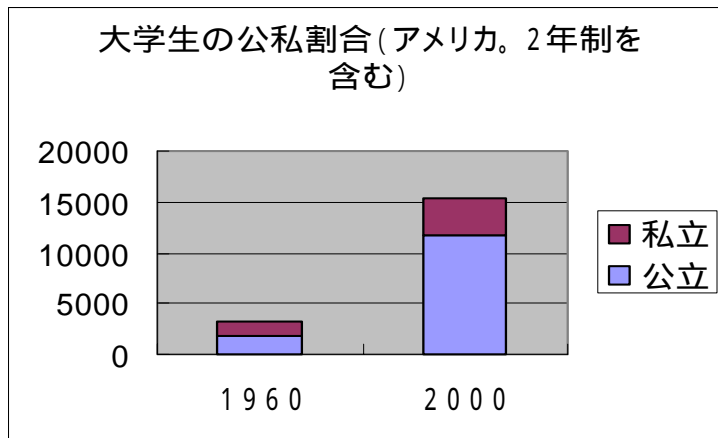
高等教育入学率(同一年齢層に対する)



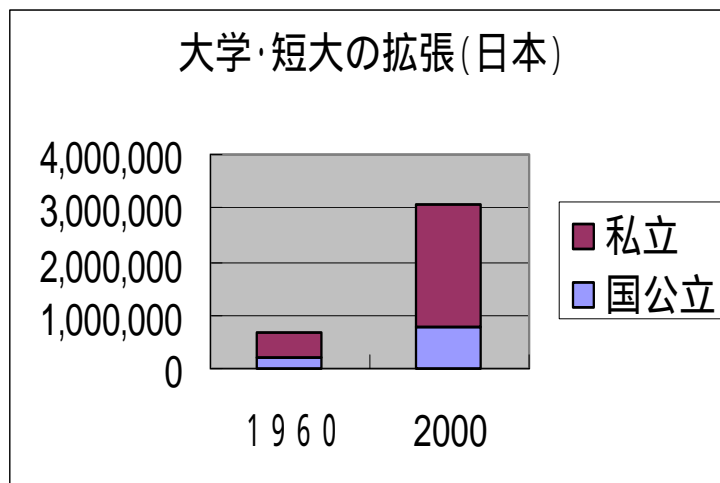
1960～2000年の 高等教育の規模拡大

- イギリス = 16倍
 - フランス = 7倍
 - ドイツ
 - 日本
 - アメリカ
-]= 4倍

アメリカでの高等教育の拡大は誰によって担われたか



日本での高等教育の拡大は誰によって担われたか





- **大学拡大の背後にあったものは何だったのか？**

脱産業社会の宿命



- **生産性の向上**
- **労働時間の短縮**
- **それほど多くの労働力は不要となった**
- **グローバル化**
- **生産拠点の海外流出**
- **雇用機会の減少**

高校・大学の拡大



- 家計水準の向上
- 労働から解放された青年期の登場
- 教育年限の延長
- 不本意進学が増加
- 学校・大学に閉じ込められた若者

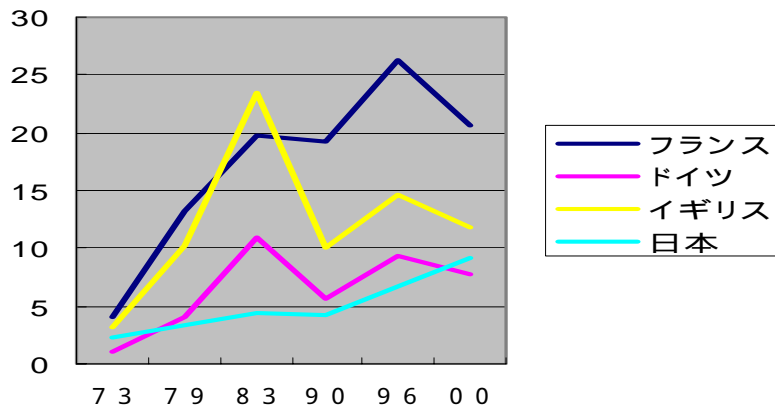
若年失業の増加



- 通うべき働き場がない
- 高校にはいける
- 大学へもいける
- 増える高校・大学中退者



第1図：若年失業率（15歳～24歳）



福祉路線の見直し



- 限界にきた公的負担
- 人口老齡化 福祉医療費の増加
- Cost recovery の登場
- 無償制への見直し



目隠しされたフンボルト



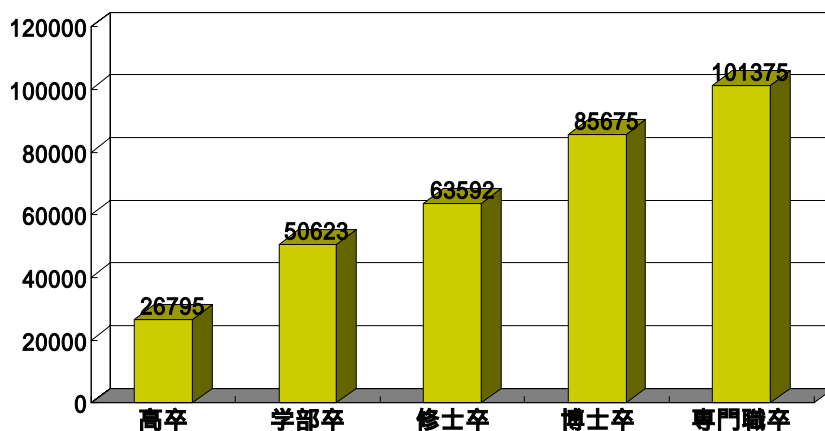
そんな予算カットは聞こえない

アメリカで何が 起きているのか？

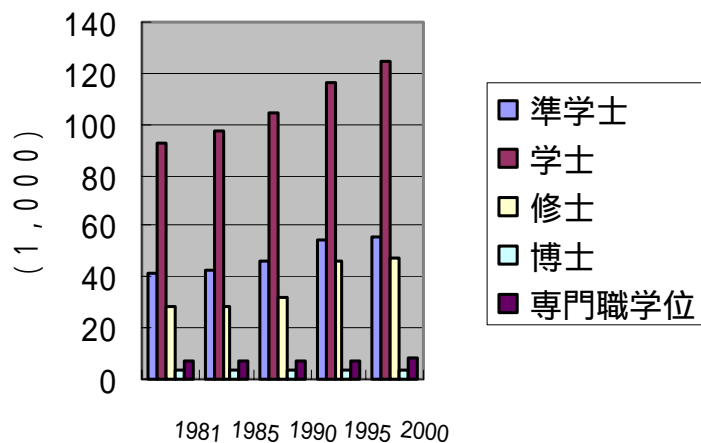
学歴社会アメリカ？



アメリカでの資格別年収

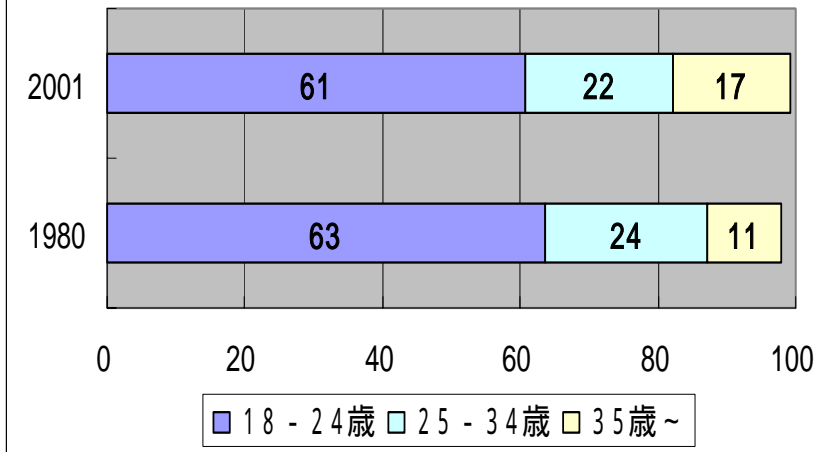


年間学位取得数(アメリカ)





アメリカの大学生の年齢構成

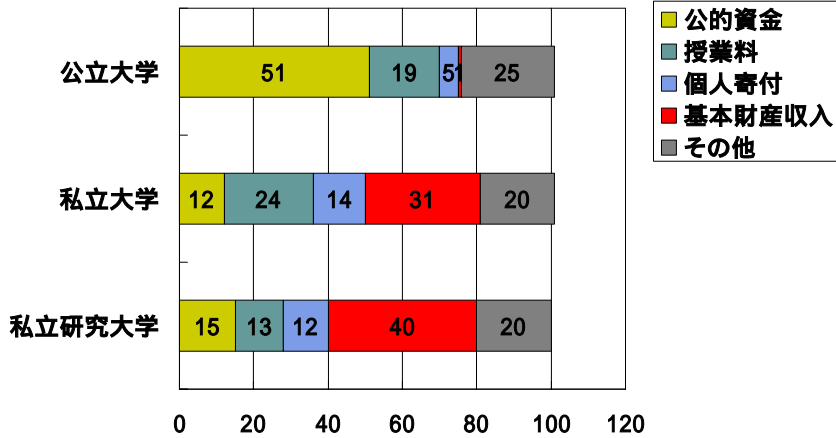


新規市場の開拓

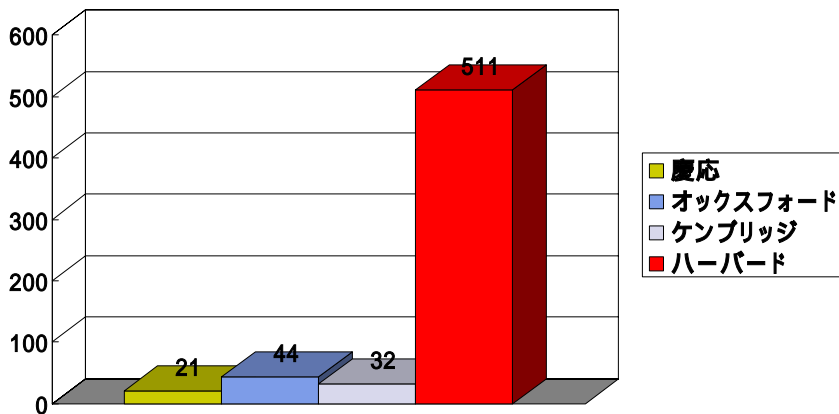


- 中・高年齢層市場
- 投資に値する教育
- 新規事業開拓のための資金源

アメリカの大学の収入源



学生一人当たり 資産運用収益・寄付(年額・万円)



アジアで何が 起きているのか？



欧米豪の大学のアジア進出



- 巨大なアジア市場
- 豪本国への留学生13万人
- 「海外キャンパス」での外国人学生約4万4千人
(2004年度の統計)
- 豪へ留学しなくとも、豪の大学の学位がとれる
- 輸出産業としての英語教育

中国へのイギリスの大学進出



- 四川大学での「英国高等教育学歴プロジェクト」
- 中国内で3年間、英国で1年
- 英国の学位取得

海外大学進出の背景



- 国際語となった英語
- 留学よりも安い経費で学位取得可能
- 英大学法人の高い機動性
- 資金源多様化の必要性高まる
- 政府資金が頼れなくなった

日本にとって何を意味しているのか？



国境を越えた大学生市場の出現



- 国境を越える労働力の移動
- 国境を越えて通用する知識・スキルへの需要
- 資格に求められる国際的通用性
- 日本にとってはチャンス、それとも脅威？

日本の大学にとっての危機



- アメリカの州立大学では州民家庭には安い授業料
- ヨーロッパでは、70年代、大学の無償化が進む
- 日本の高等教育を支えたのは「健気な親達」
- 「健気な親達」の消滅
- 18歳人口減は危機ではない
- 「健気な親」の消滅こそ危機

なぜ「健気な親」が消滅しつつあるのか



- 親が不人情になったわけではない
- 生涯設計の変化
- 頼りにならない年金制度
- 子供に依存できる時代ではない
- 自衛策が必要
- 強まる消費者意識
- 消費者の期待に応えられない大学は消滅するしかない

何を学びたいのか： 何が求められているのか



- 避けられないカリキュラム改革
- 何を学生に与えたらよいのか
- カリキュラム改革には既存の学部・学科の再編が不可欠

改革論議が見落としている問題点



- もはや「大学」をひとくくりにはできない
- それぞれの大学には、その大学なりのミッションがある
- その明確化が必要
- 構成員間での分有が必要
- Pigeon Box Theory が示唆するもの

クラーク・カー総長の嘆き



- カリフォルニア大学総長
- 「Multi-versity」の著者
- すべての教員にとっての共通関心事は「駐車場問題」だけ
- 各学部間を繋いでいるのは、暖房用のパイプラインだけ

大学に求められること



- 共通解はない
- 外部環境分析と内部環境分析
- University Identityの明確化
- アカデミック・ヴァイタリティの維持・強化